

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略 主要施策取組状況一覧

資料1

番号	事業名称	事業内容	取組状況(H29)
	<b>基本目標 1</b>	若い世代「ひと」を応援し、結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境を創る	
1	サポートチーム播磨推進事業	町の教育ニーズに対応するため、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりとして、サポートチーム播磨を構築します。常時学校に勤務する学校生活サポーターと地域ボランティアで構成し、基礎的・基本的な内容の確実な定着や、一人一人の個性や能力の伸長を図るなど、子どもたちの学習上・生活上の支援等行き届いた教育活動を展開します。	全ての小中学校に14名の学校生活サポーターを配置することにより、学力向上、生徒指導、特別支援教育の観点等様々な場面で、きめ細やかな支援を行うことができた。 平成30年1月末現在、64名が地域ボランティア登録をしている。今年度は、ことぶき大学、スポーツクラブ21はりまからの登録もあり、学生ボランティアについては、昨年度4名から10名に増加するなど、学校生活全般をよりよく支えることができた。 ボランティア募集については、今後も継続して関係諸機関に働きかけを行う。
2	子育て支援施策情報の提供	妊娠から出産、出産から就学までのそれぞれの段階に応じた施策や、子育て支援センター、保育園、幼稚園、及び学校等の施設等の情報を提供します。	子育てサークルなどの子育て中の方から情報収集を行い、必要な情報の選択を行った。 今後、子育て支援センターと連携し情報を整理し、現行の子育て情報冊子をリニューアルする予定である。 ホームページについては、民間の情報サイトなども参考にしながら、継続して検討を行う。
3	幼稚園保育料の負担軽減	町立幼稚園保育料は、国の定める利用者負担基準の上限額を大きく下回っており、さらに生活困窮者へは、減免制度を設けています。また、多子世帯支援として、小学3年までの子どもがいる家庭で2人目は半額、3人目は無料とします。	幼児教育の無償化に向けた取り組みの段階的な推進を国が進めており、県の軽減事業においても軽減額が増額された。 本町においても、多子世帯等への負担軽減について、昨年度に引き続き実施した。
4	乳幼児等医療費助成事業 子ども医療費助成事業	0歳から小学3年生までの児童、小学4年生から中学3年生までの子どもの健全育成と子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、医療費を所得制限なしで無料化しています。	乳幼児等医療費(0歳から小学3年生まで)については、平成19年7月から所得制限なしで無料化を実施した。 子ども医療費(小学4年生から中学3年生まで)については、平成27年7月から所得制限なしで無料化を実施した。平成29年度も引き続き無料化を実施した。
5	奨学金事業	就学の機会を増やし、将来を担う若者を支援します。	新規6名を含む51名に対して貸付を行った。 国における高校授業料無償化や高等教育への支援が進められ、各種奨学金制度や貸付制度が充実してきた中、今後の町の奨学金制度について検討を進めるものとする。
6	地域子育てボランティアを養成	より身近な地域で相談や情報提供ができるよう研修等の実施により地域の子育てボランティアの養成を行います。	すでに子育て支援センターで活動している団体と子育てコンシェルジュが連携し、子育て支援の情報収集を行った。今後も継続して連携し、子育てボランティアの育成の方法や活動について検討していく。
7	子育て世代包括支援事業	母子健康手帳交付時に、保健師がすべての妊婦と面談し、必要に応じて関係機関と協力して、個別支援計画を策定し、電話や訪問等で、妊産婦から子育て世代の親子の支援を行います。	こども窓口にて専任の保健師及び子育てコンシェルジュを1名ずつ継続して配置している。 子育て世代包括支援事業として、平成29年度より1歳未満の親子を対象とした「ベビーフェスタ」を開催(2回)。フェスタでは親子遊び・小児科の話・専門職の相談等を行い、町の子育てに関わる方々の協力も得て情報提供を行った。 また、助産師による赤ちゃん相談を子育て支援センターで月2回実施した。 子育て相談や保育施設への入所等に関する相談窓口として、専任の子育てコンシェルジュが面談や電話にて対応を実施している。
8	子育てコンシェルジュの配置	子育てコンシェルジュを配置し、個々の相談に応じ、必要な子育て施策や施設の状態を提供し、切れ目のない子育て支援を行います。	・保健師 相談件数(平成30年1月末現在) 面接(母子健康手帳交付を含む)481件、電話163件、メール0件、個別支援計画27件 ・コンシェルジュ 相談件数(平成30年1月末現在) 保育・教育面談等233件、保育所受付及び相談242件(窓口・電話)
9	はりま出会いサポート事業	関係機関と連携し、若者の出会いの場を提供します。	スポーツクラブ21はりま主催の「スポーツDE恋活」が、6月と12月に開催された。
10	不妊治療費助成事業	特定不妊治療については、県の補助事業に、上乘せします。一般不妊治療についても、不妊治療に要した治療費の自己負担分についての助成を行います。	不妊治療を受けられた夫婦の経済的な負担の軽減を図るため、一般不妊治療費助成事業、特定不妊治療費助成事業及び不育症治療費助成事業を実施した。 助成件数(平成30年1月末現在) ・一般不妊治療費助成件数 8件 ・特定不妊治療費助成件数 10件 ・不育症治療費助成事業 0件
11	はりまここのとりタクシー券の発行	播磨町内には産婦人科がないため、陣痛時に家族がいなくても安心して町外の病院に通院できるよう、タクシー事業者に講習を行い、妊婦にはタクシー代の助成を行います。	母子健康手帳発行時に、事業案内している。出産時は家族の支援が得られていることが多いようで利用件数は少ないが、支援が得られない方にとっては喜ばれている。 助成件数 4件(平成30年1月末現在)
12	はりま産後サポート事業	安心して子育てができるよう、助産師による授乳相談や乳房マッサージを実施するとともに、医療機関で行った乳房マッサージ費用に対して助成を行うことにより、子育て家庭の経済的な負担の軽減を図ります。	助産師による専門的な助言指導を実施することで、産婦のセルフケア及び不安軽減につながっている。 相談件数等(平成30年1月末現在) ・授乳相談 延べ58人 ・赤ちゃん相談(助産師の相談のみ) 延べ93人 ・乳房ケア訪問 5件 ・乳房ケア費用助成 13件 ・ヘルパー派遣 0件
13	幼稚園一時預かり事業	すべての幼稚園で、就労や通院・介護、保護者のリフレッシュなど一時的に在園児を預かることで、安心して子育てができるよう教育時間終了後から午後4時まで「一時預かり事業」を実施します。	1学期中の利用園児数は少ない人数で推移していたが、制度が浸透する中で2学期以降は増加した。 1月末利用園児数(延べ人数) 播磨 2,173人 蓮池 2,635人 播磨西 1,052人 1月末実施日数(長期休業期間含む) 播磨 172日 蓮池 165日 播磨西 167日
14	はりまフォトパスデー事業	新生児の誕生をお祝いし、健やかな成長を願い、町が指定する事業者で利用できる記念写真撮影券を交付します。	記念写真撮影券は、出産1子につき1枚、子の出生の日から1年間有効とする。 撮影券交付件数 152件(平成30年1月末現在)
15	子育てかるた絵本復刻事業	子育ての体験をもとに作成された「子育てカルタ絵本」を復刻します。子育ての楽しさや、育児の不安や悩みの解消の手助けとなるよう出産家庭に配布することにより、子育てを支援します。	子育て支援センターで絵本として利用してもらったり、母子手帳を申請するときに父子手帳とともに渡すことにより、子育てへの不安軽減を図った。また、希望者には販売も行っている。 配布冊数 239冊(平成30年1月末現在)

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略 主要施策取組状況一覧

資料1

番号	事業名称	事業内容	取組状況(H29)
	基本目標 2	安全・安心を確保し持続可能な「まち」を創る	
16	住宅耐震推進事業	震災に備え、民間住宅の耐震化を推進するため、簡易耐震診断の実施、耐震改修工事等の補助、住宅無料相談会の開催を行います。	各種件数(平成30年1月末現在) ・住宅耐震推進事業による簡易耐震診断申込件数 16件 ・耐震改修計画策定費補助申請数 3件 ・耐震改修工事費補助申請数 3件 ・簡易耐震改修工事費補助申請数 1件 ・建替工事費補助申請数 2件 ・住宅無料相談会開催:平成29年5月20日(申込なし)、6月21日(申込なし)、7月29日(1件)、8月18日(申込なし)、9月23日(1件)、10月20日(1件)、11月17日(1件)
17	土山駅南防災公園整備事業	平常時は快適な休憩や交流の場とし、緊急時には防災拠点としての機能をもつ公園を整備(H27)	(利用状況) 住民の方の休憩や交流の場や、自治会防災訓練の場として利用されている。
18	コミュニティバス運行事業	自動車が運転できない高齢者等の移動を支える重要な移動手段である公共交通の利用促進を図ります。また、子育て世代や高齢者の外出機会を増やすための移動手段を確保するため、町内を走行するコミュニティバスの実証運行を行います。	運行事業者の選定にあたって、平成28年度より公募型プロポーザル方式による募集を4回行ったが、実証運行事業者候補者の決定に至らなかった。 今後は、他の方法も調査・研究する中で、交通弱者に対する施策等について検討を行う。
19	あえのはま広場 うみえーる広場整備事業	スポーツだけでなく憩いの場としても利用できる新たな広場を海岸部に整備(H27)	(利用状況) ・あえのはま広場→子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が利用されている。 ・うみえーる広場フットサルコート→10,583人利用(平成30年1月末現在) (平成30年3月末見込数 12,500人)
20	福祉会館改修事業 (総合相談運営事業)	老朽化により入浴施設を廃止し、子どもから高齢者まで多くの世代が利用できる施設としてリニューアルします。 また、隣接地に駐車場を新設し、利用者の利便性の向上を図ります。	幅広い世代が利用できるようキッチンスタジオを新設した。それに伴い隣接する娯楽室の半分は、畳から床にし、車いすでの利用も可能にした。なお、娯楽室は無料で使用できるスペースとし、誰もが使いやすく集える場とする。 さらに、駐車場も増設し、車いすスペースを設け、屋根も設置し、利用者の利便性の向上を図った。 また、相談室を新たに設置し、平成30年度から総合相談運営事業を開始する予定で進めている。
21	都市公園施設改修事業	「野添北公園」の老朽化した複合遊具を更新します。	平成28年度に、更新工事で新たに設置する遊具を、業者からのプロポーザル方式と子どもたちへのアンケートにより決定し、平成29年度に更新工事を実施した。11月の大中遺跡まつりに合わせて、供用開始したところ、連日多くの子どもたちで賑わっている。
22	消費生活啓発事業	複雑多岐にわたる消費者問題に対応するために専門相談員を配した相談窓口を設置するとともに、被害の発生予防のために啓発活動を推進する。	これまで、設置していた「播磨町消費生活相談コーナー」の相談業務を拡大し、平成29年度より「播磨町消費生活センター」として設置した。さらに、近隣市町と連携協定を締結し、相談窓口の充実と相談員の資質向上を図った。

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略 主要施策取組状況一覧

資料1

番号	事業名称	事業内容	取組状況(H29)
	基本目標 3	資源を活かした産業の振興で「しごと」を創る	
23	企業誘致事業	町内の新たな企業立地の促進策として、企業誘致を検討していきます。	平成28年度から新島、東新島における緑地面積率を、20%以上から1%以上に緩和して、産業集積の活性化に努めている。 また、移転企業に対し税制面で優遇することにより、企業立地を促進する。
24	開発特産品の認定	地域ブランドの開発に取組み、開発特産物の認定をし、地域の賑わいを創出します。	播磨町商工会により、推奨品認定基準や認定シール(ロゴマーク)等が策定された。もって、町内産品の発掘や事業所の商品開発を支援している。 また、産業振興を図ることを目的に、兵庫南農業協同組合、播磨町漁業協同組合、播磨町商工会及び播磨町の4者で連携協定を締結した。
25	住宅リフォーム助成制度	町内事業者が施工する住宅リフォーム工事に対し、その費用の一部を助成します。	町内の施工業者を利用して行われる住宅リフォームに対し、その費用を助成することで、町内産業の活性化を図ってきた。 平成29年度におけるリフォーム助成申請件数は、90件(平成30年1月末現在)。これに対する施工業者は25者、工事総額は92,802,995円となっており、地元経済の活性化に寄与した。
26	経営革新・創業支援事業	商工会で創業支援セミナーや個別相談等を行います。また、企業準備オフィスを設置して起業者を支援します。	商工会2階の一部を改装し、創業準備オフィスを3ブース整備して、短期間貸し出すことで、事業の立ち上げの支援を行っている。 また、創業支援セミナーや経営支援個別相談会を開催された。 その中から平成29年度は2人、町内で起業された。

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略 主要施策取組状況一覧

資料1

番号	事業名称	事業内容	取組状況(H29)
	基本目標 4	魅力を伝え、選ばれるまちとして「ひと」の交流・移住・定住の流れを創る	
27	播磨町いいとこ写真募集事業	播磨町の良い景観(いいとこ)を多くの住民の方から知っていただき、播磨町の良さを再発見してもらうことを目的に写真を募集し、適時に町内各所で展示会を開催します。町ホームページでも広く紹介します。	播磨町いいとこ写真展 募集期間:平成29年6月25日～8月25日 応募点数:44点 展示期間:平成29年10月24日～平成30年2月5日(町内8施設)
28	同窓会支援事業	町内の学校の卒業生が同窓会を行う際に、ホームページや広報に掲載するなどの支援を行うことで、町外に転出した住民が、町内へUターンをすることを目指します。	播磨町公式ホームページ及びフェイスブックで同窓会開催を周知する情報支援を継続実施した。 平成29年度実績 2件(町内中学校卒業生の同窓会)(平成30年1月末現在)
29	土山駅南交流スペース活用事業	JR土山駅南町有地において、本町の玄関口としてふさわしい景観を持ち、利便性が高くにぎわいと交流のある空間形成します。施設内に設置予定の駅前交流スペースにおいて、広く町のPRをするとともに、周辺自治体の産業・就業状況についても情報提供します。	播磨町の新たな拠点として、情報提供及び案内等を行い、住民及び来訪者等の利便と交流等を図っている。 各種件数等(平成30年1月末現在) ・展示物等→109件(広報はりま等) ・イベント開催数→ギャラリーコーナー貸出5件(営利1件、非営利4件) ・利用人数→24,075人/年 79人/日 ・交流スペース独自の取組 2件(著名人の色紙展示・播磨町PRポスターキャンペーン)
30	空き家活用支援事業	空き家と認定された物件を活用する際に、支援を行います。	播磨町内の空家等の流通を促進し、管理不全となる空家等の発生を抑制するとともに定住を促進するために、一般社団法人兵庫県宅地建物取引業協会と「播磨町空家等バンク」に関する協定を締結し、相互に連携・協力のもと、「播磨町空家等バンク」を設置した。
31	まちづくり講演会事業	住民主体、地域主体のまちづくりを進めるための講演会を開催します。	まちづくり講演会開催 開催日:平成29年10月29日(日) テーマ:参加型まちづくりのはじめかた ～自分のまちは自分たちでつくる～ 講師:佐伯亮太(合同会社Roof コミュニティファシリテーター)
32	郷土PRコンテンツ制作事業	郷土の偉人である「新井」の用水路を開削した「今里傳兵衛」を紹介する映像を制作し、郷土資料館で常時上映するとともに、公共施設、学校園でも活用し、住民の郷土への理解と愛着を深めます。	播磨町の郷土の偉人を紹介する映像として、新井の用水路を開削した「今里傳兵衛」を紹介する映像を制作した。郷土資料館や土山駅南交流スペースで常時上映するとともに、公共施設や学校園にもDVDを配布して、住民の郷土への愛着や理解を図っていく。
33	はりま DE アニバーサリー	播磨町オリジナルの婚姻届及び出生届を作成し、また、記念写真撮影コーナーを設けて来庁者に自由に活用いただくことで、播磨町への愛着を深め定住促進を図ります。	平成29年6月に町広報紙と全戸配布により、デザイン案を募集した結果、婚姻届デザイン案22作品、出生届デザイン案11作品の募集があり、町ホームページからの投票などで最終作品を決定した。 最終作品のデザインにより、婚姻届、出生届各1,000部を印刷し、町の全景をイラストで描いた記念撮影コーナーとともに11月22日(いい夫婦の日)に使用を開始した。
34	播磨町PRポスター制作	播磨町の『ひと』をテーマとし、『ひと』にフォーカスした写真を活用し、播磨町の魅力を表現するとともに、移住・定住の動機づけに繋がるポスターを制作します。	「播磨町のひと」をテーマに、町内で働く人・暮らす人の笑顔にフォーカスしたPRポスターを2種類作成した。 本ポスターを通じて、町内の方はもちろん町外の方に対しても播磨町の良さ(笑顔あふれるまち)をPRし、移住や定住促進に向けて町の認知度の向上を図っていく。 ・掲出場所 町内 各公共施設やイベント時に活用 町外 JR西日本での外部広告掲載